東京の宿（1935）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 80分
初公開日 1935/11/21

【解説】
　小津安二郎の最後のサイレント作品で、坂本武演じる喜八を主人公とした「喜八シリーズ」の最終作。原作者のウィンザアト・モネは“Without Money”のもじりで、小津と池田忠雄と荒田正男との合同ペンネームだ。
　仕事を失い女房に逃げられた喜八は、小学生の子供二人を抱えて、木賃宿に寝泊まりしていた。喜八はそこで、おたかという美しい母親とその娘に出会った。おたかに思いを寄せる喜八だったが、やがて職が見つかり働くようになった。だが突然、おたかが娘とともに姿を消してしまう。落胆する喜八。娘が疫痢にかかってしまい、おたかは治療費を稼ぐため働いていたのだ。

【クレジット】

監督	小津安二郎	
原作	ウィンザアト・モネ	
脚本	池田忠雄	
	荒田正男	
撮影	茂原英朗	
美術監督	浜田辰雄	
衣裳	斎藤紅	
音楽監督	堀内敬三	
演奏	松竹蒲田楽団	
出演	坂本武	喜八
	突貫小僧	善公
	末松孝行	正公
	岡田嘉子	おたか
	小嶋和子	君子
	飯田蝶子	おつね
	笠智衆	警官

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.